

学びと誇りが実感できるまち

～自分のことを考える
読書をとおして！～

令和3年6月号

庄原市教育委員会
教育部生涯学習課



紫陽花の藍をとばして雨あがる (阿部みどり女)

コロナ禍にあって、しかも緊急事態宣言の発令があった広島県にとって、より一層、感染症防止の生活行動を行っていく必要があります。本市においても多くの感染者が確認されており、3密を防ぎ、マスクの着用、手洗いと消毒など、できることは徹底して行い、何としても元気で健康な生活が送れるように頑張りましょう。

さて、今回は、これまでも大いに奨励してきている読書活動について、もう一度、子供も大人もしっかり取り組もうという提案です。これからも外出する機会が制約され、家庭で過ごす時間が増えてくると思いますので、家族の皆さんと一緒に本を手にとって読んでいただき、感想を語り合うなど、団らんの話題にもしていただきたいと思います。また、本を楽しく読む習慣が定着することを願っています。

良き書物を読むことは、過去の最も優れた人たちと会話をかわすようなものである。

The reading of all good books is like a conversation
with the finest minds of past centuries.

～ルネ・デカルト（哲学者・数学者）の言葉～

本を読むと、誰にでも会え、どこにでも行けます。いろいろな境遇や時代の人の心を知るとともに、自らを振り返り、人の気持ちがわかる思いやりのある人になっていくことができます。

読んだ本の数だけ体験できる世界や想像力は広がっていきます。読書によって私たちは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにできます。読書は、激しく変動する社会の中で人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

現在、教育委員会では「子供の読書活動推進計画（第四次計画）」を策定しています。これまで学校司書や読書ボランティアの精力的な活動などにより、子供たちの読書意欲や読む量・時間が増えてきていますが、もっともっと読書好きになるように計画を練っていきます。